

2015年度

(平成 27 年度)

事業報告



社会福祉法人
全国スモンの会

2015年（平成27年）事業報告 目次

社会福祉法人 全国スモンの会

1. はじめに 相良眞紀子理事長	2
2. 法人本部	3
3. 評議員会・理事会の開催	5
4. 補助金・助成金	7
5. 法人定期刊行物『曙光』の発行	8

障害者支援施設 曙光園

1. はじめに 小野寺和子施設長	9
利用者の状況	
事故・インシデント	
苦情・ご意見	
曙光園の職員体制	
2. 生活支援部	35
3. 相談支援部	38
4. リハビリテーション健康部	40
5. 調理部	47
6. 事務部	54
7. 防火・防災対策	55

曙光園 特定相談支援事業所

1. 曙光園 特定相談支援事業所	57
------------------	----

社会福祉法人 全国スモンの会

1. はじめに

社会福祉法人 全国スモンの会
理事長 相良眞紀子

2015年度は、2017年4月から大きく変革される社会福祉法人制度を見据えて準備する始まりの年でした。1951（昭和26）年、社会福祉事業法の設立とともに制定された「社会福祉法人制度」は、大きな変更もなく現在に至っておりましたが、さまざまな社会的政策的な変動を経て、提供する福祉サービスのあり方や事業環境は急激に変化してまいりました。2000（平成12）年には、社会福祉法・介護保険制度も成立し、介護や保育分野に多くの異なる事業体が参入した結果、社会福祉法人制度も設立当初のままの制度として存続していくことが難しい状況となりました。さらに近年、社会福祉法人への批判が表面化しており、多額の内部留保を溜め込んでいることや一部の法人経営者の不適切な経営姿勢が批判の的となり、大きな変革の機に至っているようです。一方では、増大する社会保障費抑制のために、いろいろな問題が意図的に使われたのではないかという見方もあります。いずれにしても、社会福祉サービスの担い手として、当法人もガバナンスを高めて、財務規律・自律的な組織にしていかなければならぬと思います。2015年度は毎月、予算執行状況の報告を受け、無駄なく資金が使われているかどうかを確認してまいりました。

次に、地域における「公益的な取り組み」として、公的な財源を使い利用者にサービスを提供する事業主体の役割を担っている当法人は、利用者の方々の地域移行や自立支援を必要とする方々に、質の高い福祉サービスを提供していくということを忘れずに、取り組んでまいりたいと思います。

さらに、法人組織を形成していくには、人の力が重要です。役職者を含めた全職員の意思統一もさることながら、新しい職員が入職することによって、新たなる教育が必要になってまいります。職員の教育と評価など、具体的な報告は法人本部の項目で別途記載いたしますが、毎月の木鶲会においても、各職員には明確であること、積極性と誇りを持って仕事に向かうこと、そして素直な心で人に接することの大切さに気づくことを願い、取り組んでおります。ただし、参加人数が少ない時もあるので、職員が楽しく参加できるよう、工夫も必要です。

次に、研修や、職員の個別面談の際にも、法人の理念、その趣旨などについて

て講義をしておりますが、わかりやすく理解し、聴いていただけるように、注意しております。

法人の理念を「御旗」にたとえますが、同じ目的を持ち目標に向かって御旗のもと堅固な組織になるように務めます。

約 5 年もの間、法人本部長として当法人の運営に尽力されました鈴木信之評議員が、2015 年度を持って法人職員を退職されました。2017 年度からスタートする予定のグループホーム事業においても、2015 年度において基礎的な準備を済ませてくださいました。当法人はいよいよ 30 年以上続けてきた一法人一施設の体制を脱し、多事業を扱う社会福祉法人として、社会から求められる、新たなステージへと、職員一同心を一つにして向かってまいります。

2. 法人本部

2015 年度は、法人の組織力強化が実施された。本部機能は、評議員・理事・監事と、施設（現場）との情報共有化をより充実させることができた。その中で、法人の新事業へ向けての『法人事業検討委員会』が提言を検討し、議案の作成を行った。

社会福祉法人のあり方が、改めて問い合わせ今後の改革要請に対して敏感に対応できるように、引き続き情報収集に努め、地域社会への貢献や、運営の効率性などに対応できるような、組織力・経営能力を構築するため、準備を行った年度であった。2016 年度も評議員会・理事会を中心とした体制の充実に取り組みたいと考える。

職員の教育・評価

職員の教育・育成については、『法人木鶴会』を本年度も月例開催して、人間力の向上と、職員間の連携強化をめざした。曙光園で実施している専門的技術研修と合わせて、職員のプロフェッショナル意識を育成した。

人事考課制度については、直接給与に波及する制度ではないが、法人が想定する職員像及び、業務レベルへの到達をめざし職員の個人目標設定面接を実施した。

施設の維持・營繕・防災

曙光園外部（外壁面・サッシ廻り防水）の全面改修のため東京都中規模改修

工事を実施した。

エレベーター新設工事は、2019年度までの工事実施をめざす。

法人の理念と趣旨の伝達

社会福祉法人 全国スモンの会の職員として、理念・趣旨を理解し、各部署の役割を尊重する目的から、新人研修を実施した。常勤職員 3 日間、非常勤職員 2 日間を基本研修として、各部署長からの講習と、館内清掃・入浴支援・配膳支援等の体験、理事長または法人本部長からの、法人の理念・歴史・未来及び、職員（社会人）としてのマナー講習を行った。

近隣地域との交流

近隣地域との交流は、前年と同様、施設イベント時に、来賓として地域代表者の招待や、地域ボランティアとして、芸能等の披露や、運営ボランティアを受入れた。

3. 評議員会・理事会の開催

2015年度 評議員会・理事会の開催記録

会議名称	開催日時	参加/現数	議 案
第81回 評議員会	2015年5月17日	12名/15名	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度事業報告 ・2014年度決算 ・改選理事・監事の選任 ・新第三者委員の委嘱、および苦情対応要綱の改訂 ・曙光園短期入所事業運営規程の改定 ・業務支援ソフトウェア等購入の承認
第101回 理事会	2015年5月17日	6名/6名	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度事業報告 ・2014年度決算 ・改選評議員の同意・委嘱 ・新第三者委員の委嘱、および苦情対応要綱の改訂 ・曙光園短期入所事業運営規程の改定 ・業務支援ソフトウェア等購入の承認
第102回 理事会	2015年5月20日	6名/6名	<ul style="list-style-type: none"> ・新理事長の選任 ・理事長職務代行者の選任
第103回 理事会	2015年8月16日	4名/6名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度中規模改修工事（東京都民間社会福祉施設設備改善整備費補助事業）の入札方法等の決定 ・グループホーム事業に関する設計業者選定 ・グループホーム事業に関する借地契約等の確約書締結の承認
第104回 理事会	2015年9月13日	6名/6名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度中規模改修工事（東京都民間社会福祉施設設備改善整備費補助事業）の指名入札業者選定
第82回 評議員会	2015年10月18日	15名/15名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度中規模改修工事施工業者決定 ・2015年度補正予算 ・常勤職員給与規程（別表）改訂 ・グループホーム事業の計画変更の承認
第105回 理事会	2015年10月18日	6名/6名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度中規模改修工事施工業者決定 ・2015年度補正予算 ・常勤職員給与規程（別表）改訂 ・グループホーム事業の計画変更の承認

第83回 評議員会	2016年1月31日	14名/15名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度補正予算 ・2015年度東京都実地検査について（報告及び、一部規定等の改訂の承認）
第106回 理事会	2016年1月31日	6名/6名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度補正予算 ・2015年度東京都実地検査について（報告及び、一部規定等の改訂の承認）
第84回 評議員会	2016年3月20日	9名/15名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度補正予算 ・2016年度事業計画　・2016年度予算 ・法人マイナンバー取扱規程施行の承認 ・2016年4月以降の法人本部長職について 【継続審議】
第107回 理事会	2016年3月20日	5名/6名	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度補正予算 ・2016年度事業計画　・2016年度予算 ・法人マイナンバー取扱規程施行の承認 ・2016年4月以降の法人本部長職について 【継続審議】

4. 補助金・助成金事業

- ・東京都福祉保健局

平成 27 年度民間社会福祉施設設備改善整備費補助

工事名 : 曙光園外部等防水改修工事
契約業者 : 株式会社 増田コーポレーション
工事期間 : 2015年11月4日～2016年1月31日
総事業費 : 9,914,400円
助成金額 : 4,957,000円
負担金額 : 4,957,400円

- ・公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団

平成 27 年度施設整備等助成事業

購入品目 : ニッサン バネット NV200 チェアキャブ 1台
納入業者 : 東京日産自動車販売株式会社 小平店
納入日 : 2015年11月8日
総事業費 : 2,370,000円
助成金額 : 1,500,000円
負担金額 : 870,000円

- ・社会福祉法人 東京都共同募金会

平成 27 年度共同募金整備費・特別事業費 第二次 A 配分

(三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金)

申請品目 : ホシザキ電機株式会社 業務用冷凍冷蔵庫
HRF-150Z 1台
配分決定日 : 2016年3月25日
(納入完了日 : 2016年4月16日)
総事業費 : 680,400円
助成金額 : 420,000円
負担金額 : 260,400円

5. 法人定期刊行物『曙光』の発行

計画の通り、4月、7月、10月、1月の各1日、定期刊行物『曙光』を発行した。全国スモンの会 後援会会員、その他支援者、曙光園利用者（希望者）、曙光園の全職員などを対象としている。定期に発送している購読者は、No.443（1月1日発行）現在、254名（2014年度比3名減）となっている。

発刊番号	発行日	タイトル・記事
No.440	2015年4月1日	~「多文化の共生」～ • 地中海における文明の衝突 -十字軍- (高山博) • 紛争現場からの警鐘「集団的自衛権」へのNGOの反論 (谷山博史) • 農民連食品分析センターが明らかにしたこと（第3回） (石黒昌孝) • 相手を大切に想う心 (相良眞紀子) 他
No.441	2015年7月1日	~「国の動き、現場の課題」～ • インクルーシブ教育と合理的配慮（前）(上田征三) • 農民連食品分析センターが明らかにしたこと（最終回） (石黒昌孝) • 新しい難病対策の概要と課題（後）(水谷孝司) • 驥尾（きび）に付す ~瓜生イワ~ (相良眞紀子) • 「日本人の食事摂取基準 2015年版について」(元村美穂) 他
No.442	2015年10月1日	~「ともに生きる」～ • インクルーシブ教育と合理的配慮（後）(上田征三) • 驥尾（きび）に付す ~岩橋武夫~ (相良眞紀子) • 「第8回『人に出会う』福祉セミナー」に参加して（編集部） • 「マイナンバー制度」導入される（編集部） • 武蔵野美術大学14号館「デザイン工房棟」(編集部) 他
No.443	2016年1月1日	~「一歩一歩前進」～ • 驥尾（きび）に付す ~ヘレン・ケラー、サリヴァン先生、ベル博士 (相良眞紀子) • 「まあ、空気でも吸って」書評セッション（編集部） • 難治性てんかんに対する迷走神経刺激療法 (徳田慎一 他) • 「第8回『人に出会う』福祉セミナー」に参加して（続） (編集部) 他

障害者支援施設 曙光園

1. はじめに

社会福祉法人 全国スモンの会 曙光園
施設長 小野寺和子

2015 年度も引き続き障害者総合支援法に基づいた利用者主体の運営を目指し利用者のご理解とご協力により設備面また人材面の両面で利用者サービスの質の向上を図った。

2015 年度の事業計画における目標は以下のように評価できる。

利用者の日中活動支援の強化について

作業活動においては、利用者の主体性を育むために作業活動の選択肢を増やし、作業スペースでの活動を支援する職員を増員することにより、幅広い種類、また質、量共に前年度よりも飛躍した作品を作成することが出来た。また職員が作業活動の支援をすることにより、利用者が作業に集中し過ぎて体調を崩さないよう配慮した。外部へ持ち出しての作品の発表の場は前年度と同程度であったが、所沢市、飯能市の民生員の方々や、他施設よりの見学者等、来園者向けに発表する機会を複数持つことができた。来園したお客様の希望により作品をお譲りする機会も増え、その際に頂いた寄付金を作業活動の材料費に当てる等、作品作りのモチベーションを上げるサイクルも出来てきた。

利用者の健康維持のための自己リハビリはリハビリ健康部の担当療法士の指導のもと参加利用者が増え、生活支援員の声かけや促し、見守りを受けながらチェックシートをつけ、概ね計画どおりリハビリテーション健康部と生活支援部が共同で取組むことが出来た。

自立訓練においてはこれまでの経験が活かされ、地域移行までチームアプローチによる計画的訓練が実施出来るようになった。相談支援部を中心にサービス管理責任者、リハビリ担当者立会いのもと個別支援計画と目標を策定し、それらに基づいた形で、無理や不安がないように自立生活に必要な訓練を積みながら地域移行へと結びつける取組が実施され、実際に 2 名の利用者が地域移行をし、自立生活を営まれている。

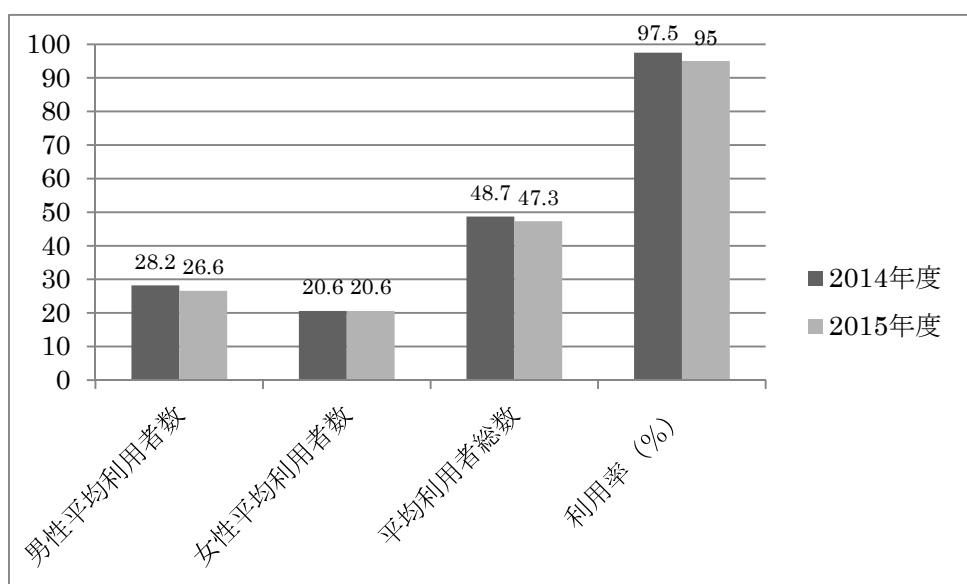
組織力の向上（人材育成と職員の定着）

2015年度は新卒で採用した20代の若い女性常勤職員の離職が相次いだ。いずれも勤続年数は3年程度であったが、職員の採用、定着、育成について、わたくし自身が深く省みる転機となった。高い有効求人倍率の中、世間一般的には人気があるとは言えない福祉の職業ではあるが、その社会的意義ややりがいは測り知れない。理事長の方針である、福祉業界のみならず、広く世間一般で活躍できる人材育成を目標とし、誰からも信頼され期待され求められる人として成長できるよう、資質の向上のための施設内研修も毎月実施した。結果が出るには時間がかかるかもしれないが、引き続き、理事長指導のもと資質の向上に努めて行く。また、女性が働きやすい職場環境となるよう勤務時間と勤務曜日については個々人の事情を鑑みた希望どおりの労働契約としたため人員配置については曜日や時間帯により偏りが起きている。そのため現場からは賛否両論あるが、労働条件について幅広く柔軟性を持たせた結果、直接待遇職員の人員配置は最も高い率である利用者1.7人に対し職員1名という基準を達成できた。また2015年度の介護福祉士国家試験にも6名の職員が挑戦し、本人達の努力が実り、全員合格という結果が出た。そのうち5名は当園で福祉の仕事を始め、勤続年数3年超の間、努力と実績を重ねた職員達である。こういった職員達の期待に応えることが出来る仕組み作りと職場環境整備に今後もより一層努める。人材育成について結果が出るのはまだまだ時間がかかるが、計画に沿った方向で少しずつではあるが、概ね進んだ1年であった。

利用者の状況（2016年3月31日現在）

曙光園の施設入所支援（定員50名）に対する平均利用人数・利用率、年代別利用者数と平均年齢、および利用者の移動方法別入数は下記のとおりである。

施設入所 平均利用者数・利用率



年代別利用者数と平均年齢

年齢	20歳から29歳	30歳から39歳	40歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳	75歳から79歳	80歳から84歳	平均年齢(歳)
2014年度	1	2	3	5	5	4	9	12	3	1	62.1
2015年度	2	2	3	6	8	4	8	9	6	1	61.0

利用者の移動方法別人数

	2015年度末 人数（名）
自立歩行	4
杖歩行	4
車椅子 介助	25
車椅子 自走	16
合計	49

- 外出時・施設内スロープの移動時に車椅子支援を必要な利用者は、車椅子介助として計上した。
- 施設内の平地で杖を使用する利用者で、外出時・施設内スロープの移動時に車椅子を使用する方は、車椅子介助として計上した。

曙光園は、障害者総合支援法(当時は、障害者自立支援法)による運営に2011年度に移行する前には、身体障害者入所更生施設として運営されていた経緯を持つ。現在も「身体障害を主たる障害とされている方」を利用の対象としており、2015年度末では利用者49名全員が、身体障害者福祉法に基づく身体障害者手帳の交付を受けている。同手帳の交付地別利用者数、障害等級の内訳、障害名、および障害に至った病名、症状名は下記のとおりである。

身体障害者福祉法による、身体障害者手帳所持者（2015年度末現在）

交付地別利用者数

交付地	2015年度末 人数（名）
東京都多摩地区	23
東京都特別区	25
東京都島嶼部	0
東京都外	1
計	49

障害等級内訳

障害等級 (総合等級)	2015年度末 人数（名）
1級	32
2級	16
3級以下	1
計	49

身体障害者手帳における利用者の障害名、および障害に至った病名、症状名
 (2015 年度末現在) ※重複障害のケースがあるので、人数の合計は利用者総数と一致しない

障害に至った病名・症状名	人数
脳出血	14
脳性麻痺	8
脳梗塞	5
疾患・疾病	4
くも膜下出血	4
脊髄小脳変性症	3
脊髄の疾患	2
外傷	2
スモン	1
多発性硬化症	1
大腿骨頸部骨折	1
脊柱管狭窄症	1
脊髄梗塞	1
脳炎	1
結核性脳膜炎	1
ギラン・バレー症候群	1
二分脊椎	1
頸部脊髄症	1
混合性難聴	1
感音性難聴	1

障害名	人数
体幹機能障害	13
四肢体幹機能障害	3
左上肢機能全廃	3
左上肢機能の著しい障害	3
左上肢機能障害	3
左下肢機能全廃	4
左半身麻痺	3
右上肢機能全廃	7
右上肢機能障害	8
右下肢機能の軽度障害	1
右下肢機能全廃	4
右下肢機能の著しい障害	2
右下肢機能障害	7
右半身麻痺	2
右上下肢痙攣性麻痺	1
両上肢機能の著しい障害	1
両上肢機能障害	4
両上肢機能の軽度障害	1
両手指機能の著しい障害	1
両下肢機能の著しい障害	1
両下肢機能全廃	3
両下肢機能障害	3
ぼうこう機能障害	1
移動機能障害	3
両視神経委縮	1
下肢弛緩性麻痺	1
聽力障害	3
言語機能障害	1
音声機能障害	1

重複障害として、身体障害者手帳以外に療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持つ利用者については、以下の通りである。

「療育手帳制度について」（厚生省（当時）発児第 156 号厚生事務次官通知）による、療育手帳所持者（2015 年度末現在）

交付地別利用者数

交付地	2015年度末 人数（名）
東京都多摩地区	2
東京都特別区	4
東京都島嶼部	0
東京都外	0
計	6

障害の程度内訳

障害の程度	2014年度末 人数（名）
1種	0
2種	0
3種	1
4種	5
計	6

※東京都では「愛の手帳」と称する。

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）による、精神障害者保健福祉手帳所持者

交付地別利用者数

交付地	2014年度末 人数（名）
東京都多摩地区	1
東京都特別区	1
東京都島嶼部	0
東京都外	0
計	2

障害等級内訳

障害の程度	2014年度末 人数（名）
1種	1
2種	1
3種	0
4種	0
計	2

障害者総合支援法に基づく、曙光園利用者の障害支援区分平均は以下の通りである。

提供サービス	2015年度末平均	2014年度末平均
施設入所支援	4.48	4.37
生活介護	4.53	4.36
自立訓練（機能訓練）	4.16	4.4

曙光園における2015年度内新規入所者、退所者、短期入所利用者の一覧を以下に示す。

2015年度新規入所者（9名）

番号	性別	年齢	身体障害者手帳における障害名	障害総合等級	入所理由	入所日
1	女	61	疾病による上肢機能障害【両手指機能の著しい障害】、疾病による体幹機能障害【坐位又は起立位保持困難】	1級	2014年内より家族のレスパイトのため曙光園にて短期入所11回利用後、ご本人の希望により本入所となる	6月7日
2	女	43	低酸素脳症による上肢機能障害及び体幹機能障害	2級	山梨県内の施設を退所後都内のクリニックに通院するも、脳症による重度の記憶障害もあり地域での生活が困難	7月14日
3	女	55	脳性麻痺による体幹機能障害	1級	新潟県内の障害者支援施設を退所後、子女家族の住む東京へ上京。約3週間の短期入所利用後、本入所となる	9月1日

4	男	59	脳出血による上肢機能障害【右上肢機能全廃】及び下肢機能障害【右下肢機能の著しい障害】（4級）	2級	回復期リハビリテーション目的で入院中の病院（東京都内）より、在宅復帰を目指し自立訓練（機能訓練）枠による入所	9月1日
5	男	64	結核性脳膜炎による右上下肢痙攣性麻痺	5級	デイケア通所と、別施設の短期入所を併用していたところ、ご本人およびご家族が曙光園の施設入所利用を希望されたため、マッチングのための短期入所を経ての入所	9月1日
5	男	52	脳梗塞による上肢機能障害【右上肢機能全廃】及び下肢機能障害【右下肢機能全廃】	1級	自宅マンションを拠点とした一人暮らしを希望しており、自立訓練（機能訓練）枠による入所	10月1日
6	男	22	二分脊椎による下肢機能障害【両下肢機能全廃】、疾病によるぼうこう機能障害	1級	家族からの支援を受けることに困難があるため	10月19日
7	女	57	脳性麻痺による移動機能障害（困難）	2級	家族からの支援を受けることに困難があるため	10月19日
8	男	58	ギランバレー症候群による上肢機能障害【右上肢機能の軽度障害】、上肢機能障害【左上肢機能の著しい障害】、および下肢機能障害【両下肢機能の著しい障害】	1級	東京都内の病院より、将来地域での生活を目指し、自立訓練枠による入所	10月27日

9	女	52	脳出血による上肢機能障害【左上肢機能全廃】及び下肢機能障害【左下肢機能全廃】	1級	東京都内の介護老人保健施設より、継続的なリハビリテーション実施のため入所	1月1日
---	---	----	--	----	--------------------------------------	------

2015年度退所者（6名）

番号	性別	年齢	身体障害者手帳における障害名	障害総合等級	退所理由	退所日
1	女	66	脳出血による上肢機能障害【左上肢機能全廃】及び下肢機能障害【左下肢機能全廃】	1級	本人の希望により、将来地域での生活を目指すために介護老人保健施設へ入所	6月30日
2	男	71	脳出血による右半身麻痺【右上肢機能障害】及び【右下肢機能障害】	2級	検査において比較的最近の脳梗塞が発見されそのまま入院となり、療養型病棟での入院治療が長期にわたって必要となったため	8月13日
3	女	64	脳出血による左半身麻痺【左上肢機能障害】及び【左下肢機能障害】	1級	子宮体がんが胸骨に転移。病状進行のため療養型病院に入院	9月11日
4	女	67	四肢体幹機能障害	2級	車椅子使用者向け都営住宅への入居	10月1日
5	男	50	脊髄の疾患による両下肢機能障害	1級	本人の希望により、東大和市内のアパートで単身生活を始めるため	10月2日
6	女	43	低酸素脳症による上肢機能障害及び体幹機能障害	2級	尿路感染症による敗血症性ショックのため、救急搬送先の病院で逝去	11月9日

2015年度短期入所利用者

番号	性別	年齢	身体障害者手帳における障害名	障害総合等級	退所理由	利用期間
1	女	61	疾病による上肢機能障害【両手指機能の著しい障害】、疾病による体幹機能障害【座位又は起立位保持困難】	1級	介護を行う家族（主に母親）のレスパイトケアのため ※通算10回目	4月18日～4月26日
2	男	56	脳性麻痺による四肢体幹機能障害	1級	介護を行う家族（母親）のレスパイトケアのため ※通算2回目	4月30日～5月15日
3	男	64	結核性脳膜炎による右上下肢痙攣性麻痺	5級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所	5月1日～5月10日
4	女	61	疾病による上肢機能障害【両手指機能の著しい障害】、疾病による体幹機能障害【座位又は起立位保持困難】	1級	介護を行う家族（主に母親）のレスパイトケアのため ※通算11回目。6月7日より施設入所	5月23日～5月31日
5	男	64	結核性脳膜炎による右上下肢痙攣性麻痺	5級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※通算2回目	6月1日～6月14日
6	男	22	体幹機能障害	1級	介護を行う家族のレスパイトケアのため	6月12日～6月13日
7	女	55	脳性麻痺による体幹機能障害	1級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※9月1日より施設入所	8月9日～8月31日
8	女	43	低酸素脳症による上肢機能障害及び体幹機能障害	2級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※7月14日より施設入所	7月6日～7月9日

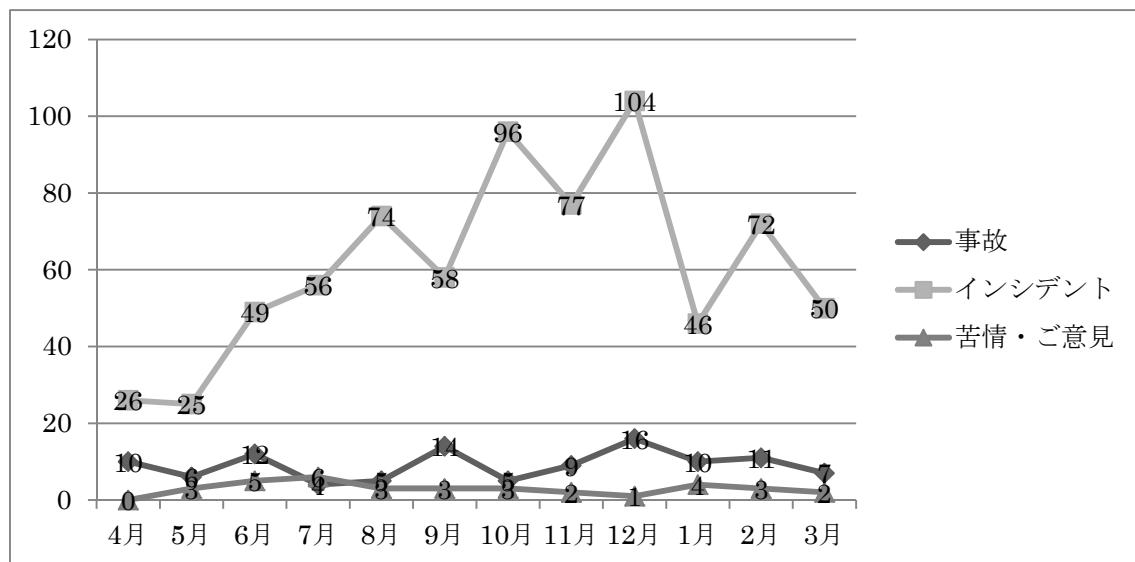
9	男	22	体幹機能障害	1級	介護を行う家族のレス パイトケアのため ※通算2回目	7月10日 ～ 7月12日
10	男	64	結核性脳膜炎による右上下肢痙性 麻痺	5級	施設入所利用希望に先 立つ、マッチングのた めの短期入所 ※通算3回目	7月13日 ～ 7月31日
11	女	29	脳原性による両上肢機能障害およ び移動機能障害	1級	看護者（家族）の体調 不良による緊急利用の ため	7月16日 ～ 7月31日
12	女	29	脳原性による両上肢機能障害およ び移動機能障害	1級	看護者（家族）の体調 不良による緊急利用の ため	8月1日 ～ 8月31日
13	男	58	交通事故による左股関節機能全廃	4級	施設入所利用希望に先 立つ、マッチングのた めの短期入所 ※施設入所には至らず	8月3日 ～ 8月9日
14	男	22	体幹機能障害	1級	介護を行う家族のレス パイトケアのため ※通算3回目	8月11日 ～ 8月14日
15	男	64	結核性脳膜炎による右上下肢痙性 麻痺	5級	施設入所利用希望に先 立つ、マッチングのた めの短期入所 ※通算4回目	8月17日 ～ 8月28日
16	男	59	脳出血による上肢機能障害【右上 肢機能全廃】及び下肢機能障害【右 下肢機能の著しい障害】（4級）	2級	施設入所利用希望に先 立つ、マッチングのた めの短期入所 ※9月1日より施設入 所	8月17日 ～ 8月31日
17	男	64	結核性脳膜炎による右上下肢痙性 麻痺	5級	施設入所利用希望に先 立つ、マッチングのた めの短期入所 ※通算5回目。9月1 日より施設入所	8月17日 ～ 8月28日

18	男	52	脳梗塞による上肢機能障害【右上肢機能全廃】及び下肢機能障害【右下肢機能全廃】	1級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※10月1日より施設入所	9月9日 ～ 9月11日
19	男	56	脳性麻痺による四肢体幹機能障害	1級	介護を行う家族（母親）のレスパイトケアのため ※通算3回目	9月11日 ～ 10月4日
20	女	57	脳性麻痺による移動機能障害（困難）	2級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※10月19日より施設入所	9月18日 ～ 9月24日
21	男	22	二分脊椎による下肢機能障害【両下肢機能全廃】、疾病によるぼうこう機能障害	1級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※10月19日より施設入所	9月29日 ～ 10月5日
22	男	58	ギランバレー症候群による上肢機能障害【右上肢機能の軽度障害】、上肢機能障害【左上肢機能の著しい障害】、および下肢機能障害【両下肢機能の著しい障害】	1級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※10月27日より施設入所	10月24日 ～ 10月26日
23	男	56	脳性麻痺による四肢体幹機能障害	1級	介護を行う家族（母親）のレスパイトケアのため ※通算4回目	11月22日 ～ 12月6日
24	男	23	体幹機能障害	1級	介護を行う家族のレスパイトケアのため ※通算4回目	12月8日 ～ 12月11日
25	女	52	脳出血による上肢機能障害【左上肢機能全廃】及び下肢機能障害【左下肢機能全廃】	1級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※1月1日より施設入所	12月19日 ～ 12月31日

26	女	62	筋ジストロフィーによる上肢機能障害【両上肢機能全廃】、下肢機能障害【両下肢機能全廃】、および体幹機能障害【坐位不能】	1級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 ※施設入所には至らず	1月12日～ 1月13日
27	男	22	体幹機能障害	1級	介護を行う家族のレスパイトケアのため ※通算5回目	1月27日～ 1月29日
28	男	57	脳性麻痺による四肢体幹機能障害	1級	介護を行う家族（母親）のレスパイトケアのため ※通算6回目	1月27日～ 1月29日
29	男	23	体幹機能障害	1級	介護を行う家族のレスパイトケアのため ※通算6回目	3月25日～ 3月26日
30	男	53	脳梗塞による上肢機能障害【左手指軽度障害】及び下肢機能障害【左下肢軽度障害】	6級	施設入所利用希望に先立つ、マッチングのための短期入所 (※2016年4月1日より施設入所)	3月28日～ 3月31日

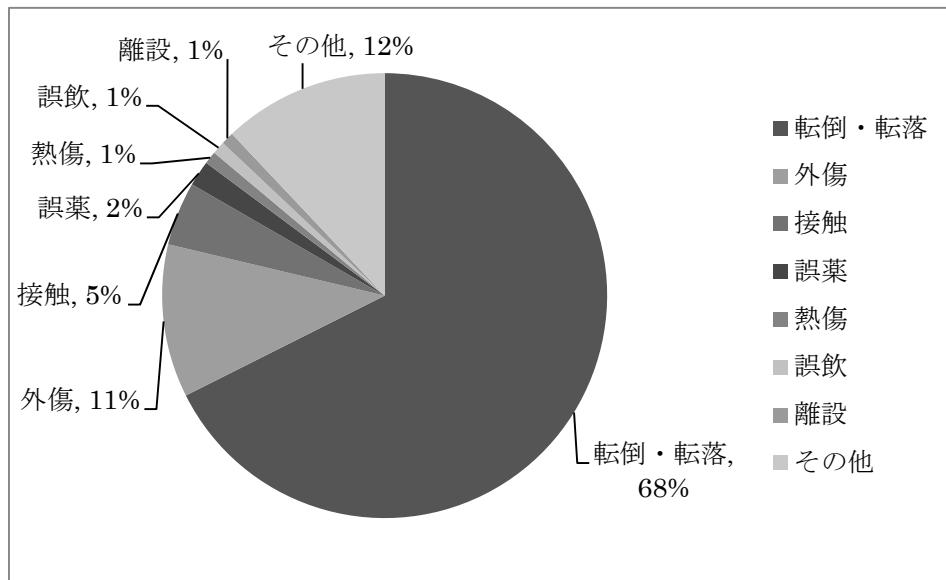
事故・インシデント・苦情・ご意見

2015年度の各件数を、下の図に示した。



事故・インシデント

事故発生総件数 109 件中、転倒・転落事故が 68%、73 件（昨年 64%、51 件）で、その他では、外傷 12 件（擦り傷など）、接触 5 件と上位 3 種類の事故で全体の 84% を占めている。事故種類の割合を下の図に示した。



事故の傾向について

発生件数は 109 件と 2014(平成 26)年度の 80 件を上回る結果となった。2015(平成 27)年度は、新規利用者の増加もあり、入所当初の情報収集の段階で事故につながるケースが、件数増加の要因の一つとしてあげられる。また、転倒・転落については 3 名の利用者に集中している。主に移乗時の事故であり、要因として病気の進行による身体状況の変化、体調不良による状態の変化によって発生している。都度、対応策を検討し利用者の状態に考慮した支援の方法を検討してきた。

具体的な対応策の例としては、移乗時の最適な足の位置を決めて床にテープなどで印をつけ、視覚に訴える形で利用者、支援員共に意識付けができる様取り組んだことで類似した転倒事故を消滅することが出来た。

新規利用者については、事前情報以外にも、日常生活動作などの情報を都度更新し入所されてからの言動観察の強化に努めている。

インシデントの傾向について

インシデントについては、報告件数が 2014(平成 26 年度)の 298 件から 2015(平成 27 年度)は 683 件に増加している。

年度後半にかけて件数が増加しており、些細なケースでも報告を上げる事に

より利用者の状態把握の共有や職員の観察力、洞察力の向上にもつながっている。インシデント分析による取り組みの一例としてあげられるのが、洗濯場でのトラブル防止のため、洗濯場入り口にボードを設置し洗濯機使用の順番、洗濯時間などを表示し円滑に使用が出来るように取り組みを行い、徐々に定着してきておりトラブルも減少している。今後も日々の観察力の向上、情報の共有に努め、事故を未然に防げる環境を組織的に行える仕組み作りに取り組んでいきたい。

苦情・ご意見

苦情とご意見については、法人内で委嘱した第三者委員による聴き取り調査を定期的に実施した。利用者からの苦情・ご意見については、隨時苦情解決責任者が、苦情解決担当者からの報告または直接聴き取りを行い、解決に向けた対応策を検討し改善するようにしてきた。利用者へは、改善方法をご説明して理解して戴けるように努めた。職員による苦情・ご意見の聴き取り調査を毎月行い、苦情解決責任者が苦情解決担当者と共に迅速に対応し解決するように努めてきた。利用者全員参加のもと毎月開催している懇談会において、苦情・ご意見に対して改善内容を報告し、理解を求められるよう努めた。

この懇談会における苦情・ご意見の内容は、「社会福祉事業の経営者による福祉サービスに関する苦情解決の仕組みの指針について」（厚生省（当時）2000年6月7日障第452号）に従い、個人情報に関するものを除き、以下に「懇談会における毎月の苦情・ご意見と、その解決に向けての取り組み」として記載した。

毎月の苦情・ご意見と、その解決に向けての取り組み

※2015年4月の苦情・ご意見の報告は0件であった。

2015年5月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
シーツ交換の際に掃除機だけでもかけてほしい。職員間での連絡がちゃんとされていないのでは？（知らない・聞いてないと言われることが多い）	掃除機については毎日、居室をローテーションしてかけています。シーツ交換日においては、全室に掃除機をかけることが難しいため、居室の換気をしながらシーツ交換を行っています。ご理解ください。各職員は交代制で勤務を行っており、出勤直後の場合、必要な業務連絡をまだ受けていない場合もありますのでご理解ください。職員の接遇につき再度指導致します。

共同トイレに置いてあるハンドソープの中身が少ない時がある。	職員が気を配りこまめに補充していますが、一度に大量に使用される方がおられ、すぐに少なくなってしまうことがあります。適量（=ワンプッシュ）でご使用くださるようお願ひいたします。また、なくなっている場合は近くにいる職員にお声掛けください。
居室の共同スペースに車椅子を置いていた時に、勝手に移動され危険なので勝手に移動しないで欲しいと直接話をしたがその後も同様なことがあり理解してもらえない為困っている。	懇談会で次のようにみなさんへ説明をします。園内の共有スペースを使用する場合、お互い譲り合い使用するようにして下さい。また移動する場合には、相手の方に了解を得た上で移動をして下さい。転落事故などにつながります必ず遵守して下さい。
乾燥機等、設備が故障した際は早めに対応して欲しい。また、修理が終わる目途など、修理の状況を教えて欲しい。	なるべく早急に対応しますが、業者や曜日の関係で、修理が遅れてしまうことがあります。ご了承ください。修理の状況などにつきましては、分かり次第園内放送などにてお知らせしていますが、お聞きのがしがあったと思われる方は、恐れ入りますが事務所にてご確認ください。

2015年6月

苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
タオル交換の際には、交換済みであることが見て分かるよう色や柄を違うものにしてほしい。	前日のタオルとは必ず異なる柄のものに交換するよう、再度職員に呼びかけます。
懇談会を、受診等で途中で抜けた場合に、その間の話（大事な話）を教えて欲しい。	リハビリ室に設置している白板に、懇談会での発表内容を記載していますので一度ご確認ください。内容について理解できない部分がございましたら、発表者へ確認をして下さい。
包布の種類（四隅が開いているものと、開いていないもの）を四隅が開いているものに統一できないか？	メーカーへ希望の包布のみの納品が可能かどうか確認しましたが、どうしても区別して納品することは出来ないそうです。ご了承下さい。
部屋でホーンを鳴らしても届かないときがある。ホーンを交換したが、変わらない。	支援員と一緒に再度確認をし、鳴らない原因として考えられる、接触の問題や押す力の加減や位置等の説明を受け、納得される。

2015年7月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
嚥下体操は全員参加じゃないんですか。	現在は個人の都合で不参加の方も見受けられます、全員のご同意のもと、全員参加で開始したことですので、基本は全員に参加していただきたいと思っています。
速達の郵便が届いたときに、部屋においてあり、気付いたのが遅くなってしまったことがあった。速達のときには必ず一言かけてほしい。	申し訳ございません。事務部へ報告し、今後は外出時の時には、後から必ずお声掛けができるようにします。
日中作業の荷物がどんどん増えていく為、居室前のスペースが狭くなり入りしにくい。整理をするか他スペースを設けることはできないか。	日中作業担当者等と検討いたしました。現在の場所に棚を入れ、整理するようにしました。また一部の工具、材料等は作業台の下に置くようになります。
外出届けを提出した際に、受け取った職員は、行事等と重なっていないか必ず確認してほしい。(レントゲン撮影の日程と重なっていた。)	確認不足で申し訳ございました。今後、届けを受け取った職員は必ず予定表と照らし合せ確認をするよう呼びかけます。それと同時にご自身でもスケジュール表の確認及び提出時に職員へ一言をお願いいたします。
シーツの全取替えのときに、部屋番号がわかるようにして欲しい。(シーツに紙が貼ってなつたり白板に書いてなつたりする)	利用者が分かるよう、必ず白板や紙の貼りだしができるよう、環境美化と支援部で協力し徹底できるよう努めます。フロア掲示板に予定を貼り出し、注意するよう心掛けます。
2階トイレ洗面台の床ふき雑巾が用意されていないときがある。若い職員や新しく入った職員の利用者との関わり方が気になることがある。言葉の選び方や、その利用者のことを考えた上での関わり方があると思う。	環境美化係と生活支援部で定期的に補充をしておりますが、一度に複数枚を持って行ってしまう利用者の方がおられるようです。他の方の迷惑になりますので、必ず一枚ずつ使用して下さい。 接遇について再度指導致します。また、職員の不適切な対応等があった場合には、上長又は管理者へお伝え下さい。

2015年8月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
入浴外介助が、返答がないときや不在の時間があり、不安になることがある。	職員間で協力し、なるべく外介助職員がその場を離れないで対応ができるよう努めます。

食事の後、入口に置いてあるゴミ箱にゴミを捨てている利用者がいるため、後ろがつかえてしまう事がある（特にパン食の時）ゴミ箱の位置を変える事はできないか？	環境美化、生活支援部で話し合いました。ごみ箱の位置は、安全性確保のため変更はできません。ご容赦下さい。食堂の入口で停止すると、他の方への迷惑となりますので、食事の後のゴミ捨てについては他のゴミ箱をご利用下さい。
短期入所、退所の報告が食堂入り口に貼られているが、目が見えないので、貼られた時点で、食事のメニュー説明の時にでも報告してもらいたい。	食事の時では支援員が何度も同じことを伝えてしまう可能性があるので、どの時点で、誰が伝えるか相談員、主任と話し合います。後日決定時（掲示時）に、直接ご連絡をいたします。

2015年9月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
新しい職員が、曙光園の事を知らなすぎて困る。質問しても「わかりません」と言う返事が多い。もっと曙光園のルールなどを知って欲しい。	新しい職員に対して、解らない事などは主任、もしくは、先輩職員に聞いて覚えてもらい、曙光園の規則、ルールをもっと理解してもらうよう指導致します。
玄関の雑巾が無い事があるので困る。	定時補充を行っていますが、一人で大量に使用する方がおられ、すぐに無くなる場合があります。一人一枚でのご利用をお願いします。

2015年10月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
シーツ交換や居室清掃が終った後に、サイドレールが戻っていない事がある。	シーツ交換・居室清掃が終った際に、再度確認して、同じ事が起こらないように致します。
シーツ交換や居室清掃後にL字バーを真っ直ぐになおしておいてほしい。ベッドマットの足元側に隙間をつくらないでほしい。	会議で議題としてあげ、周知徹底に努めます。
退所された人の名前がまだ下駄箱に貼ってある。退所したらすぐに剥がして欲しい。	早急に対応いたします。また、今後このような事が無いように気をつけます。

2015年11月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
先日、居室のテレビをイヤホン無しで聞いていたら、職員に注意されました。音を出してテレビを見てはいけないのでしょうか？	同室者の同意があれば問題ありません。但し、隣の部屋の方や、フロアまで聞こえるほどの大音量を出すなど、他の利用者の方に迷惑がかってしまうことのない程度でお願いします。

2015年12月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
保湿タオルが絞りきれていないくて、床が濡れていことがある。	職員全員に伝え、今後このようなことが無いようになります。

2016年1月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
食事後、食堂に、一人でも職員を残してもらえると助かる。	食事中、食事後の食堂には、常に職員が配置されることにはなっていますが、状況によって居られない場合があります。なるべくそのような状態にならないように職員間で声を掛け合うように致します。
朝の時間帯（6時～7時）と夕食後（18時半過ぎ位）の時間帯に職員が少ないので増やして欲しい。ホーンで呼んでもなかなか来てもらえないで不安になってしまう。	直ぐに職員を増やすことは難しく、その時間帯に出勤している職員で声を掛け合い、待っていただく時間を少なくする様に心掛けます。
スロープの下りを介助してもらった後、立ち止り禁止ゾーンでそのままに置き去りにされて困る。	生活支援部会議で報告し、今後そのような事が無いように気をつけます。

2016年2月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
掃除の後にベッドの位置がずれていて、ストップバーがかかっていなかった。	会議で議題にあげ、今後そのようなことがないように致します。
二階給湯室にあるコップを置くための水切りかごが、車椅子の高さだと、高すぎて蓋の開け閉めが上手にできない。食堂に置いてあるタオルみたいには出来ないか？	生活支援部会議の議題として検討いたしました。水切りかごに蓋をかぶせるのではなく、食堂と同様、コップの上にタオルを掛けることで衛生を保つようにいたします。
職員の横の繋がりが出来ていなくて困る。何か聞いても、知らない、聞いてない、まだ見てないから（掲示板）と言われてしまう。ちゃんと連絡事項を知って欲しい。	職員全体への意見として受け止め、しっかりと情報共有出来るように、会議でもう一度話します。

2016年3月	
苦情・ご意見	解決に向けての取り組み
調理員がメニューの説明をしている時に、違う話を利用者に大きな声で説明している職員がいて、メニュー説明が聞こえなかった。	会議で議題にあげ、利用者全体への説明がされている時は、個人への話を控えるように徹底します。
食事をしているときに車椅子にぶつかる人が多い。	職員が周囲を観察しながら、危ない時は注意を促す声掛けを行ってまいります。

曙光園の職員体制

施設内研修

施設内研修として、法人木鶴会（月1回）、職員会議内ミニ研修（月1回）を実施した。また、東京都福祉協議会の「福祉・介護人材キャリアパス支援事業」による講師の派遣を受けた「キャリアパス研修」を実施した。

OJT (On-the-Job Training) については、曙光園生活支援部の職員を中心に5つのグループを組んで10のテーマを取り上げることとした。各グループで研究を進めた成果についての発表会を、生活支援部主催の部会（生活支援部会、サービス向上委員会）において、隨時実施した。

外部研修

外部研修に参加する職員は、必ず事前レポート（「この研修で学びたいこと」「講師に質問してみたいこと」等）と事後レポート（「この研修で学んだこと」「日常の業務にどう生かすか」等）を提出している。この提出されたレポートについては、曙光園事務所における閲覧を可能とし、知識・情報の共有に努めている。

案件数、および参加人数において、2015年度は41件、延べ64名の参加となった。2014年度実績の42件、延べ68名と、ほぼ同水準である。2017年度以降の多事業展開のために必要な人材の育成を進めることができた。

2015年度の施設内研修、外部研修、OJT (On-the-Job Training)、および内容等を、以下の各表に記載した。

施設内研修一覧

日付	テーマ	講師または担当者	内容	参加人数
4月10日	職員会議ミニ研修	栗原美紗主任 治田雅照職員	「小規模社会福祉施設の防火実務講習会を受けて」	22
4月20日	第12回 法人木鶴会	(なし)	「一（いち）を抱く」	15
5月8日	職員会議ミニ研修	小野寺和子施設長	「障害者虐待防止・権利擁護研修」	18
5月18日	第13回 法人木鶴会	(なし)	「人生心得帖」	21
6月12日	職員会議ミニ研修	六川光史氏 (東京防災救急協会)	「曙光園における救命サポート」	17
6月15日	第14回 法人木鶴会	(なし)	「一天地を開く」	18
7月10日	職員会議ミニ研修	安杖蓮職員 柴田元春職員 渡辺佳央里職員	「初任者研修を終えて」	16
7月20日	第15回 法人木鶴会	(なし)	「生きる力」	17
8月7日	職員会議ミニ研修	小野寺和子施設長 安杖蓮職員 畠山浩司職員	「ハラスメント防止研修」 「車両安全運転講習会」	16
8月10日	平成27年度 東京都社会福祉協議会登録講師派遣事業	佐々木由恵氏 (日本社会事業大学)	「KYT（危険予知トレーニング）多職種の施行スキームから考える」	9
8月17日	第16回 法人木鶴会	(なし)	「力闘向上」	19
9月11日	職員会議ミニ研修	安杖蓮職員 大島克哉職員 柴田元春職員 治田雅照職員	「沖縄伊江島『人に出会う』セミナー」	20
9月11日	平成27年度 東京都社会福祉協議会登録講師派遣事業	高岡宏氏 (東京都同胞援護会)	「認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活」	12

9月21日	第17回 法人木鶴会	(なし)	「百術は一誠に如かず」	15
10月19日	第18回 法人木鶴会	(なし)	「先哲遺訓」	16
11月13日	職員会議ミニ研修	相良眞紀子理事長 大島克哉職員	「プロになるための十一の法則」 「防火・防災管理者講習」	15
11月16日	第19回 法人木鶴会	(なし)	「遠慮 一遠きを慮る」	16
12月11日	職員会議ミニ研修	相良眞紀子理事長 相模泰宏主任	「『話す力』十か条」 「年末調整について」	20
12月11日	平成27年度 東京 都社会福祉協議会 登録講師派遣事業	戸田恭子氏 (東京国際福祉専門学校)	介護に必要な医療知識(糖尿病)	11
12月21日	第20回 法人木鶴会	(なし)	「人間という奇跡を生きる」	15
1月8日	職員会議ミニ研修	相良眞紀子理事長	「マナー研修」	18
2月12日	職員会議ミニ研修	相良眞紀子理事長	「あなたの目標は何ですか?」	19
2月15日	第21回 法人木鶴会	(なし)	「一生一事一貫」	18
3月11日	職員会議ミニ研修	相良眞紀子理事長	「スタッフの心得」	20
3月21日	第22回 法人木鶴会	(なし)	「願いに生きる」	17

外部研修一覧(各研修の実施日時が複数あるため、受付申し込み順に記載した)

日付	主催	内容	参加人数
4月1日より 1年間	東京都社会福祉協議会	平成27年度 社会福祉施設長資格 認定講習	1
5月13日	日本財団	助成金活用セミナー	1
5月12日、13日 5月26日、27日 6月2日、3日	東京都社会福祉協議会	平成27年度 福祉職員階層別研修 初任者研修 新卒者コース/既卒者 コース	3
5月24日	にごりや農園	柏餅・和菓子作り・畑の見学	2

7月3日、4日	東京都社会福祉協議会	平成26年度採用時合同研修（福祉人材確保ネットワーク事業）	1
6月5日	早稲田速記医療福祉専門学校	実習指導者懇談会	2
6月23日、24日 7月1日、2日、 14日、15日	東京都心身障害者福祉センター	平成27年度第1回東京都相談支援従事者初任者研修	1
7月17日 9月16日 10月2日	東京都福祉保健局	平成27年度社会福祉従事者人権研修【Ⅰ】	5
7月2日	東京都福祉保健局	平成27年度社会福祉従事者人権研修【Ⅱ】	1
6月9日	小平市健康福祉部障害者支援課	平成27年度市町村高次脳機能障害者支援促進事業支援員連絡会	2
7月3日	東京都社会福祉協議会	身体障害者福祉施設における接遇研修	2
6月29日 7月7日	多摩小平保健所	調理師講習会(食中毒を起こさないための注意点について学ぶ)	1
8月5日	一般社団法人 日本福祉車両協会	安全運転講習会	2
7月16日	一般社団法人 日本経営協会	国際モダンホスピタルショウ2015	2
7月5日	にごりや農園	夏野菜の収穫とおもてなしランチ	1
7月6日	北多摩北部地域 高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会	第6回 高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会総会	1
9月1日、8日、 9日	東京都心身障害者福祉センター	平成27年度 東京都相談支援従事者現任研修	1
9月7日	損保ジャパン日本興亜株式会社	「福祉施設のための苦情対応」セミナー	2
10月7日～9日	保健福祉広報協会	国際福祉機器展 HCR2015	1
8月21日～10月 29日（全20回）	東京都労働相談情報センター	平成27年度東京都多摩労働カレッジ基本講座	1
9月1日	東京都社会福祉協議会	福祉施設・事業所に求められるマイナンバー制度の理解と対応	1

10月7日、8日	東京消防庁	防火・防災管理新規講習	1
10月16日	北多摩北部地域 高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会	高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会	1
11月4日	東京都社会福祉協議会	福祉職場の労務管理とキャリアパスを活かした人事管理	1
9月15日	デイリーヤマザキ（山崎製パン株式会社）	デイリーヤマザキ展示会2015	1
10月22日	東京都心身障害者福祉センター	平成27年度 第2回市区町村高次脳機能障害者支援促進事業支援員連絡会	2
11月14日	多摩北部医療センター 地域医療連携室	高次脳機能障害を持つ人に寄り添う	3
11月26日	小平市障害者団体連絡会	「何が変わる？変えられる？障害者差別解消法施行を前に」講演会	1
12月1日、2日、8日、9日	東京都介護福祉士会	平成27年度第4回介護福祉士実習指導者講習会	1
12月11日	東京都心身障害者福祉センター	平成27年度東京都自立支援協議会セミナー	2
11月1日	にごりや農園	秋野菜の収穫体験	2
11月25日、12月3日	東京都福祉保健局 多摩小平保健所	栄養管理講習会	2
12月6日	にごりや農園	ゆずづくし	1
12月18日	株式会社 致知出版社	第19回 社内木鶲リーダー育成塾 & 望年会	2
1月30日	「進」リハの集い	明日から臨床で結果の出せる上肢セミナー	1
2月3日	株式会社大塚商会	大塚商会 実践ソリューションフェア2016	1
2月29日	東京都立府中療育センター	障害児者の嚥下機能低下への対応～加齢による影響を中心に～	2
3月12日	一般社団法人 変わる！介護	ケアリハ3級検定講座	1
2月16日、19日	一般社団法人日本能率協会	HCJ2016（フード・ケータリングショー、厨房設備機器展）	2

2月26日	社会福祉法人 東京援護協会	平成27年度事業説明会（おもに入所による自立訓練事業の説明会）	2
3月12日	にごりや農園	うどの収穫とうどづくしランチ	1

OJT (On-the-Job Training)

班	2015 年度のテーマおよび発表日	
1	障害者虐待（10月16日）	発達障害（2月4日）
2	現場での人権（接し方）（10月16日）	相談からの人権（家族との関わり）（3月8日）
3	酸素吸引器の使い方（11月12日）	脳性麻痺による知的障害（1月15日）
4	バリアフリー（11月20日）	自立訓練（1月7日）
5	障害者のアロマテラピー（12月10日）	音楽セラピー（2月19日）

曙光園職員個人面談

職員に対し年2回、8月、および2~3月に、各部署において上長による個人面談を実施した。

前年度3月に実施した個人面談で定めた2015年度の業務上の個人目標について、8月の個人面談で経過の確認、3月の個人面談で到達状況の確認と次年度の目標を設定した。

曙光園各会議

施設運営向上のため、以下の各会議を実施した。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 職員会議（全体会議）月1回 | ⑤ アクティビティ会議 月1回 |
| ② 個別支援計画会議 隨時 | ⑥ 環境美化会議 月1回 |
| ③ 生活支援部会議 月2回 | ⑦ サービス向上委員会 月1回 |
| ④ 事故防止委員会 月1回 | ⑧ 給食会議 月1回 |

曙光園職員健康診断

5月から7月にかけて、要件を満たす職員41名に対し定期健康診断を実施した（5月30名、6月5名、7月6名）。また12月には、夜勤に就業する職員15名に健康診断を実施した。

曙光園職員の入退職動向

曙光園全体での職員数の推移、および各部署の入職・退職者数は次頁の通りである。

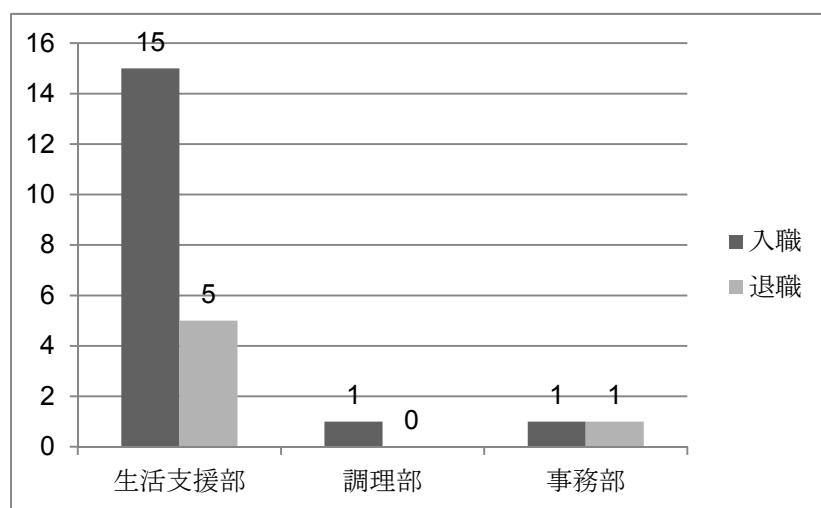
曙光園全体での職員数の推移

※ () 囲みは派遣職員、[]囲みは常勤雇用への切り替えによる派遣職員の契約終了

年月	入職職員		退職職員		職員数（各月末日現在）			
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	合計	常勤率(%)
4月		1	1		25	24	49	51.0
5月		1			25	25	50	50.0
6月		(1)			25	25(1)	51	49.0
7月					25	25(1)	51	49.0
8月		3	1	1	24	27(1)	52	46.2
9月				1	24	26(1)	51	47.1
10月			1	1	23	25(1)	49	46.9
11月		3			23	28(1)	52	44.2
12月		3			23	31(1)	55	41.8
1月		1 (1)		[1]	23	32(1)	56	41.0
2月	1			(1)	24	32	56	42.9
3月		1 (1)			24	33(1)	58	41.4

曙光園各部署の入職・退職者数

(単位：人数)



2. 生活支援部

部長 豊島秀雄

2015年度の事業計画において、以下を目標として掲げた。

1. 日中作業活動の手芸・工芸の種類を増やして充実した活動とする。また、日中作業活動の支援を全支援員が行えるようにする。
2. 社会資源の活用法訓練を生活介護利用者にも行う。
3. 個別支援会議の開催を他部署(相談支援部、リハビリテーション健康部、調理部)を交えて行い、利用者個々のニーズに沿った個別支援計画を作成しサービスを提供する。

1.の取り組みの結果、2014年度と比べ、活動実施回数が40%増170回増え、ステンシル、数珠玉、書道、絵画などの新しい活動を増やすことも出来て、利用者の参加も70%増 延べ956人増えた。

2.の取り組みの結果、生活介護利用者より自立訓練への変更がスムーズになり、また生活介護利用者が地域移行していった例が2件、他の施設へ退所した後、短期間で地域(自宅)へもどることのできた例が1件、生れた。

3.の取り組みの結果、個別支援計画内容が充実、日常の支援サービスについて部署間の連携が密になった。

自立訓練（機能訓練）

定められた訓練期間に自立に向けた相談支援、リハビリテーションを提供した。利用者自身が地域で暮らすことへの安心感を高める支援を行った。利用者自身が具体的な地域生活・社会生活を営めるよう、実地の調査・選定までを利用者自身で行えるよう支援した結果、2016年度中に地域移行を予定する利用者が3名になった。

施設入所支援

個々の利用者の特性に合わせ、適切な生活リズムを保ちながら、充実した余暇が自主的に行えるよう夜間生活を支援した。

また、各サービス共通の事項として、以下の支援を実施した。

日常生活

食事、睡眠、排泄、入浴、保清、整容、更衣、掃除、洗濯など。日常生活の支援では、各利用者の日常生活動作（activities of daily living：ADL）に合わせて、利用者自身で出来ることが減らぬよう支援を実施した。

社会生活

買い物、受診、金銭管理など、各利用者の必要に合わせた支援を行い、自己選択、自己決定、自己責任といった自主性を損なうことのないよう配慮した。

余暇活動

個人の嗜好、行事、外出など利用者の生活に潤いと充実をもたらすよう、お花見（小金井公園）、北山公園ドライブ、納涼祭、ワークショップ、小平ふるさと村ドライブ、年末お楽しみ会、正月行事・初詣、日帰り旅行等の年間行事、読書の日、習字の日、音で遊ぼう等の毎月のクラブ活動、歌の広場、童謡・唱歌の会、ドックセラピー等の隔月行事や、グループ援助（外食、買い物等の個別援助(都度)）等を実施した。

生活支援部会議など

生活支援部で開催する会議は、充実した内容で実施され、支援サービスの向上につなげることが出来た。

日常生活の相談受付及び助言

ご利用者からの相談受付及び助言、関係機関との調整や手続き代行も、各利用者の担当生活支援員、各係りの担当者を中心に支援の質を向上させることが出来た。

個別支援計画の作成と支援サービスの提供

生活支援員の個別支援計画作成参画が定着し、計画内容、計画に沿った日常の支援サービスを充実することが出来た。

各種マニュアルの整備と見直し

各担当者が見直し整備に取り組んだが、支援現場の変化に遅れることもあった。利用者の安全・安心、適切なサービスの提供、職員の作業負担軽減のため今後、更に現場に対応したマニュアルの迅速な見直し・整備に取り組む。

事故防止

事故防止委員会を中心にインシデント・事故報告の事例を分析し、予防策・対応策を即時現場に周知し、実施することに努めた。

年間行事

行事名	実施回数	平均参加人数	行事名	実施回数	平均参加人数
社会教養講座	3回/日	9.7名	お花見	6回/年	7名
近隣散歩支援	11回/月	13.3名	ドライブ (6、10月)	14回/年	3.6名
さき織り	24回/月	5.4名	買い物の日	20回/年	3.4名
ちぎり絵	22回/月	2.8名	カリオ演奏会	1回	33名
ゲーム 大ゲーム大会	6.3回/月 1回/月	9.9名 15.5名	物まねショ-	1回	33名
カラオケ	2回/週	7.1名	開所記念日	1回/年	43.0名
健康吹き矢	2.6回/月	11.7名	納涼祭	1回/年	48名
お茶の会	1回/月	34.4名	観劇	1回	5名
映画の日	1回/月	24.2名	ワークショップ	3回/年	10名
読書の日	1回/月	10名	花火大会	1回/年	25名
美術の日	1回/月	6.1名	小平市障害者 作品展見学	3回/年	4.0名
習字の日	1回/月	8.5名	クリスマスキャロリック	1回/年	30名
音で遊ぼう	1回/月	14.2名	年末お楽しみ会	1回/年	46名
童謡・唱歌の日	1回/2ヶ月	15.4名	正月行事	2回/年	12.8名
歌の広場	1回/2ヶ月	21.3名	初詣	1回/年	20.0名
ドッグセラピー	1回/2ヶ月	13.5名	木下大サ-ス	11回/年	1.7名
日帰り旅行	7回/年	4.9名	節分豆まき	1回/年	22名
外出支援 (グループ援助)	1回/2ヶ月 (各利用者)	1.2名			
外出支援 (自立訓練)	都度	延べ8名			
買い物代行支援	1回/週	9.2名			
理容	4回/月	4.0名			
美容	1回/2ヶ月	6.5名			
外部販売 (クッキー)	1回/月	9.9名			

3. 相談支援部

部長 笹本弘美

2015 年度は、都内の障害福祉担当部署やリハビリテーションを実施する病院等へ出向き、曙光園が実施する「利用者のニーズに沿った支援」を行う施設としての役割等を伝えてきた。それに伴い問い合わせ件数が増え、入所や短期入所の利用に結びつけることができた。特に短期入所者の利用者数が昨年度より急増し、定期の利用や本入所に繋がる利用が行われた。また、緊急での短期入所の受け入れの実施も行った。

曙光園利用に関する問い合わせ状況（単位：件）

年度＼問い合わせ元	行政（市区町村）	病院	家族	その他
2014 年度	27	2	0	0
2015 年度	54	5	6	5

個別支援会議の充実

個別支援会議において、個々の生活目標を立て、定期的なモニタリングの実施により中間評価を継続的に行い、利用者自身の取り組みの確認や支援内容の修正等を行った。新たな研修修了者であるサービス管理責任者を加え、他部門のスタッフと共に会議を開催し、日常生活の維持・向上のために重視している機能訓練について、リハビリを担当する療法士から意見・助言を受けることにより本人のやる気を引き出し、「自主リハビリ」実施者が増え、自身の身体機能への意識を高めることができてきた。

しかし、高齢や後遺症の影響等により身体機能の低下がみられ、区分変更を実施することとなった利用者が4名いた。

アセスメント・モニタリングの重要性

入所時や新年度に利用者のアセスメントを行った。個別性を重視した上で、生活介護・自立訓練の各々のサービス利用者ごとに、支援者側が的確な支援の方向づけができるようアセスメントを実施。課題・ニーズを把握し計画書へ反映すると共に、本人の意向に寄り添いエンパワメントを引き出す計画書となるようアセスメントを実施した。

3カ月または6カ月ごとに支援会議を開催し、モニタリングを実施した。利用者の日常支援が適切に行われてきたか、利用者の目標への取り組みの達成度や支援内容の修正の有無を確認し、目標の実現のために支援の現場へ繋いだ。

障害者の地域移行支援

2015 年度、地域移行を前提として短期にて高齢者施設利用を経た方 1 名を含む 3 名の地域移行者を送り出した。入所施設から地域での生活の再開を求め、住宅の確保、在宅サービス導入の調整、住環境の整備を支援し、本人の望む生

活の実現を支援することとなった。

車椅子での生活を余儀なくされる障害者にとって、バリアフリー等住宅確保の問題が大きく、曙光園でも希望者には車椅子対応の都営住宅申込みの継続支援してきた。今後も利用者個々の意向を聞き取りながら、住み慣れた地域や希望の場所での生活を目指す訓練と支援の内容を検討し、安心して地域に戻るための準備・支援を行っていく。

4. リハビリテーション健康部

部長 山本光代

2015 年度は、各部署と情報共有・関係を強化しチームアプローチをより密に行なう事で、利用者の健康の維持増進に努める事ができた。

看護部門では、利用者の高齢化に伴い、日常的に細やかな医療ケアが必要になってきている。利用者の状態を常に把握できるよう週1回バイタルを測定し、健康管理に努めた。2015 年度は、関係各部と連携をとりあいながら事故防止に努め、対策を強化した。インフルエンザやノロウイルス等感染症対策についても、早期予防接種を実施し、併せて日常の手洗い、うがいの励行、利用者・職員共にマスク着用、施設内の清掃、消毒、加湿を行なった。結果、2015 年度インフルエンザ、ノロウイルス共に発生する事無く経過できた。

リハビリテーション部門では、機能訓練が充実してきており利用者の機能の維持・向上を図ることができた。2015 年度は、日常生活動作 (Activities of Daily Living : ADL)、手段的日常生活動作 (Instrumental Activities of Daily Living : IADL)、社会性の向上にむけた訓練にも積極的に取り組む事ができた。

リハビリテーションの充実

2015 年度も水準の高い機能訓練を提供し、利用者の意向に沿って、身体的機能の向上に努めた。また地域移行支援に向けてのリハビリも、支援部・相談員と連携を密にし、きめ細かく支援をした。2016 年度も継続して日常生活動作へのリハビリを充実させていく。

健康管理・併存疾患・慢性疼痛等への対策

当施設利用者は、いわゆる「障害」のほかに、入所の時点で併存疾患有するものが多く、また、高齢化が進んでいることから、それら併存疾患・慢性疼痛等に対するケア・管理の必要度が高まっている。2015 年度も一般健康管理・併存疾患・慢性疼痛への管理・対策を行った。また、継続して自立に向けて利用者個々の能力に応じた処置を行えるよう支援した。

定期健診・その他の検診

年 1 回の胸部 X 線検査、及び、年 2 回の一般血液生化学検査・検尿を実施した。また、異常所見の見つかった利用者に関しては、医療機関に受診し精密検査を行い疾患の早期発見に努めた。健診結果に指摘事項のみられなかった利用

者に対しても経過観察を行った。

身体計測

今年度も従来通り「身体計測」を月1回実施した。体重測定に関しては基準となる車椅子を決め全利用者同条件で測定することにより正確に測定できるようになった。腹囲計測は年2回利用者全員に実施した。また利用者の体重変化に伴い、調理部・生活支援部と連携をとりながら食事量の調整、間食や食生活についての指導、自己リハビリの提案を強化した。結果、徐々にではあるが、対象利用者を適正体重に近づけることができた。

言語機能、摂食・嚥下機能、口腔衛生

機能訓練士による、言語、摂食・嚥下機能、口腔衛生各領域のケア・リハビリを進めた。また、訪問歯科による嚥下・内視鏡検査を実施し、指導のもと嚥下障害による食形態・嚥下訓練など、調理部・生活支援部と連携の上、きめ細かく対応することができた。

転倒予防・事故防止対策・安全管理

職員の努力により、転倒による骨折事故が少なくなってきたが、依然として転倒事故が起きている。引き続き、生活支援部と協力のもと、事故防止委員会を中心に転倒予防・事故防止を行うことで利用者の安全に努めた。

車椅子・装具の適正使用

車椅子・各種装具の適正使用に努めた。

衛生管理・感染症対策・予防接種

生活支援部とも協力の上、生活環境衛生の向上に努めた。また、白癬症対策として足浴を積極的に取り入れ実施した。

また、全利用者のインフルエンザ予防接種、少数ではあるが肺炎球菌の予防接種を実施した。

精神衛生・こころの健康

生育歴・教育歴・職業歴・社会家庭環境による心理過程、原病や障害、加齢に基づく心理的過程、集団生活・共同生活に伴う心理的ストレス等を把握するよう努め、援助した。月1回の精神科医師の診察を継続実施することで、心の健康に努めた。

施設内勉強会

2015 年度は、リハビリ部門から生活支援部への勉強会、リハビリ部門内で勉強会を実施することができた。しかし、保健・医療・看護領域の施設内勉強会は実施することが出来なかった。次年度は開催できるように努力する。

協力医療機関の確保

近隣地域の協力医療機関との連携を強化し定期受診・救急対応等を実施した。

栄養管理・食の安全

身長・体重・BMI・体脂肪率・腹囲等の計測。貧血・鉄代謝検査、総蛋白・アルブミン、電解質、摂取エネルギー（カロリー）、摂取塩分、摂取水分、食物アレルギー等について調理部・生活支援部とも連携を行い、把握研究に努めた。利用者の体重の変化に伴い、摂取カロリーの調整、生活習慣を見直し、間食への指導を生活支援部・調理部と協力のもと実施した。嚥下障害のある利用者が増えてきており、医師の指導のもと食形態の適正化に努めることで、誤嚥を防止し食の安全に努めた。また、個々の障害にあった適正な自助具を選択し容易に摂取できるように支援した。

なお、2015 年度入退院状況[入院日順]（表 1）、医療機関受診状況[診療科別延人数・頻度順]（表 2）、[医療機関別延人数・頻度順]（表 3）、機能訓練実施状況[訓練内容別延人数]（表 4）は、運営状況の参考資料として添付した。

2015年度 入退院状況[入院日順] (表1)

氏名(性)	疾病名	医療機関名	診療科	入院日	退院日
K・K	臀部膿瘍	多摩北部医療センター	循環器科	(3月15日)	4月3日
M・K	脳梗塞	東大和病院	脳神経科	6月1日	6月15日転院
		久米川病院	内科	6月15日	8月13日退所
S・K	意識障害	東大和病院	脳神経外科	6月8日	7月4日
O・N	右大腿骨頸部骨折	一橋病院	整形外科	6月13日	7月7日
T・K	副腎腫瘍精査	多摩北部医療センター	内分泌科	6月22日	6月26日
M・M	肺炎・脱水	東大和病院	呼吸器科	9月6日	9月22日
K・S	右股関節挫傷・脱水・右下腿蜂窩織炎・ 軽度肺炎	一橋病院	整形外科	10月4日	10月14日
O・T	右下腿骨々折	一橋病院	整形外科	10月9日	10月22日
M・M	誤嚥性肺炎疑い・敗血症	うしお病院	内科	11月8日	11月9日永眠
K・S	右下腿蜂窩織炎	一橋病院	形成外科	11月30日	12月11日

2015年度 医療機関受診状況 [診療科別延人数、頻度順] (表2)

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	73	83	70	77	67	76	107	71	76	65	74	70	909
歯科	80	71	68	80	59	73	94	77	72	81	73	81	909
精神科 (カウンセリング)	8	8	8	8	8	8	7	7	8	7	0	7	84
整形外科	6	4	1	2	1	3	4	4	4	3	2	2	36
耳鼻科	2	3	2	1	2	3	3	4	4	2	4	3	33
精神科	2	1	4	2	3	3	4	4	3	3	1	1	31
眼科	2	1	2	2	2	5	1	2	2	4	2	2	27
神経内科	2	1	2	1	2	1	2	1	2	2	2	1	19
泌尿器科	0	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	12
呼吸障害外来	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
脳神経内科	0	0	1	1	0	1	1	1	1	2	2	2	12
リハビリテーション科	1	0	2	1	1	0	1	1	2	1	1	0	11
放射線科	1	1	1	0	1	2	0	0	0	2	0	1	9
産婦人科	1	2	1	2	1	0	0	1	1	0	0	0	9
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	1	2	9
皮膚科	1	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	6
耳鼻咽喉科	1	0	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	6
形成外科	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	0	0	5
循環器内科	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	5
内分泌内科	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
救急外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
心身障害者福祉センター多摩支所	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
乳癌健診	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
消化器科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
循環器科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
消化器内科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
臨床検査科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
注) 喜平リハビリテーションクリニック (山口明医師) の受診回数を除く。													

2015年度 医療機関受診状況[医療機関別延人数、頻度順] (表3)

機関名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
西多摩歯科クリニック	80	71	68	80	59	73	94	77	72	81	73	81	909
和田医院	72	82	68	77	67	74	106	70	76	65	73	69	899
中山宏医師カウンセリング	8	8	8	8	8	8	7	7	8	7	0	7	84
一橋病院	5	3	2	2	2	4	4	6	7	5	2	2	44
増田耳鼻科	2	3	2	1	2	3	3	4	4	2	4	3	33
武藏村山病院	2	2	2	3	1	4	3	2	3	3	1	2	28
やさか記念病院(旧松見病院)	2	1	4	2	3	2	4	3	2	3	1	1	28
国立精神・神経医療研究センター	2	1	3	1	2	2	2	2	3	1	2	1	22
多摩総合医療センター	1	2	2	3	2	1	1	1	1	2	1	2	19
東京小児療育病院	2	1	2	1	1	1	1	2	1	1	2	1	16
東大和病院	1	1	2	1	0	4	0	0	1	0	2	4	16
多摩北部医療センター	4	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	3	14
渡辺眼科クリニック	0	1	1	0	1	2	0	2	1	1	2	1	12
立川病院	0	0	0	1	1	0	2	0	0	3	0	0	7
順天堂大学医学部附属練馬病院	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6
南台病院	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	6
久米川病院	0	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	5
村山医療センター	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4
こうた皮膚科・泌尿器科クリニック	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
東京都心身障害者福祉センター	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
順天堂大学医学部附属順天堂医院 (お茶の水)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3
公立昭和病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
代々木病院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
たかの台耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
注) 喜平リハビリテーションクリニック(山口明医師) の受診回数を除く。													

2015年度 機能訓練実施状況[訓練内容別延人数] (表4)

訓練名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
関節可動域訓練	554	510	532	533	509	504	561	522	623	526	566	611	6551
ストレッチ訓練	369	385	396	373	380	369	370	357	459	412	460	501	4831
立位訓練	127	125	149	167	203	196	229	198	251	259	257	296	2457
筋力強化訓練	464	453	484	468	473	453	503	462	561	477	497	531	5826
バランス訓練	58	64	87	86	67	93	83	70	84	83	103	88	966
歩行訓練	268	235	265	292	286	286	332	291	359	286	319	359	3578
起立動作訓練	14	15	31	19	22	11	12	4	5	8	8	7	156
耐久性訓練	20	15	21	21	20	15	26	21	23	37	28	12	259
メドマー	22	11	8	4	3	2	0	0	0	0	0	1	51
ホットパック	57	40	33	34	29	19	20	19	46	28	45	45	415
ステップ	104	87	83	83	78	74	76	63	69	48	47	48	860
A D L訓練	41	32	23	10	10	17	21	29	27	19	7	11	247
環境設定	2	0	1	1	2	3	1	2	1	1	2	1	17
趣味・生きがい	0	1	4	2	0	0	0	1	0	0	1	0	9
嚥下訓練	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	10
言語訓練	7	6	3	7	9	8	11	4	6	6	0	8	75
その他	7	5	8	7	4	4	6	3	0	2	5	4	55
体操				334	405	431	445	403	449	419	448	463	3797

5. 調理部

部長 元村美穂

はじめに

2015年度は、「食の充実」をテーマに、安心して食べる喜びを感じてもらえる「食」の提供をめざし取り組んできた。2014年度からの継続課題である、①禁食と嗜好の違い、②食形態の統一の2項目について、①については偏食を改善する方向へ近づけることを目標に、「味覚」を整えることを中心に適塩の取り組みを実施した。実施するに当たり、利用者へ理解を求めた上で取り組んだことにより、大きな問題もなく平均一日塩分摂取量8g以内での食事提供を開始する事が出来た。偏食にも付隨し、嗜好対応も改善された部分も多くなり、良い結果に繋がった。②についても食事状況の観察により、個々に適した食形態を提案し、ほぼ完成に近い状態となった。長期化する課題として取り組んできたが、「食の充実」=日々の生活を大事に過ごせる源であると捉え、利用者とのコミュニケーションをより深くすることにより、豊かな食生活の実現に貢献できたと考える。

食の充実

日々の生活の中で、食事はとても重要なものとあると位置づけ、利用者・職員の健康を維持するためにも、栄養面でのバランスの取れた食事を提供した。「健康」と同時に「美味しい」にもこだわり、「食の楽しみ」を感じてもらえるよう、真心を込めた食事を心掛けた。

また、「はじめに」でも挙げた偏食の改善への取り組みや、正しい摂取動作についても観察し、他部との連携を図ったうえで、必要に応じた食器の提案にも努めた。

併せて、アレルギーへの対応や咀嚼力・嚥下力に応じた食形態にも対応した。

イベント食

年間計画として、施設の行事に付隨する、イベント時の食事メニュー（イベント食）の他、調理部主催のイベント食として「中華バイキング」「郷土料理・東北フェア」の2回を実施した。いずれも好評を得ることができた。

また、前年に引き続き、調理部主催によるお茶の会を毎月実施した。今年度より、利用者による参加型お茶の会も計画し、作る作業から参加して「ものづくり」の体験を通して、食への理解を深める企画も実施することができた。希望者

も大変に多く、次年度も回数を増やして実施していきたい。

また、嗜好調査、利用者調査（満足度調査）も実施し、利用者の意見を反映できるよう努めた。

食材の管理

食材の管理では、利用者・職員への食の安全に十分注意を払うと共に、従前にも増して納入業者との連携を強化し、新鮮で安全な食材を確保するよう努めた。また、食材の賞味期限の把握、欠品がないように努め、併せて食材倉庫の整理、整頓、衛生の管理を徹底した。

非常食の管理

非常用備蓄食料の管理では防災倉庫に備蓄してある食材の品目、賞味期限、数量を管理した。また、賞味期限切れ等が発生する品目が多かったが、都度切れる前の購入を実施し、献立にも反映できた。

また、危機管理に備え非常食の保管場所を防災倉庫の1ヶ所集中から、3か所（防災倉庫、調理食品庫、調理倉庫）に分散管理に変更し、非常時の不測の事態に備えた。併せて、近隣住民の食材も、入れ替え購入時に同時に購入した。

衛生管理・感染症対策

安全かつ安心して給食の提供を行うため、調理部職員の健康、衛生管理維持を徹底し、月1回の細菌検査、半年に1回のノロウイルス検査を実施した。併せて、手洗い・うがいの励行、トイレの衛生管理も徹底して行った。また、感染症対策は、リハビリ健康部、生活支援部と連携し、早めの対応策（マスク着用の促しや居室食対応等）を講じ、感染の予防に努めた。

環境衛生

食事環境として最適な空間づくりを心掛け、衛生的かつ過ごしやすい雰囲気づくりを目指した。食堂フロアでは引き続き、食事時の音楽の提供効果により、リラックスした環境の中で食事の時間を楽しんでもらえた。

また、衛生に重点を置き、清潔で明るい環境づくりに努めた。厨房内も常に衛生に努め、安全な食事の提供を心掛けた。

内部研修

内部研修では衛生管理講習会を年3回実施し、衛生管理に注意喚起した。

また、外部研修では年間を通じ、地元農家による農業体験に参加し、野菜や調理法、保存などについて学び、食事の提供に活かすことができた。

臨床栄養管理の推進

リハビリ健康部と協力し、身体状況（身長・体重・BMI・体脂肪率・腹囲等の計測、生活活動状況）及び、臨床検査データー（貧血・鉄代謝検査、総蛋白・アルブミン・電解質・摂取エネルギー（カロリー）、摂取塩分、摂取水分、食物アレルギー、等）に合わせ、栄養摂取状況（必要栄養量、栄養指示内容、食事形態）を調査の上、利用者の栄養状態を把握し、より個々に適した食事の提供に努めるとともに、結果を他部門と共有し、利用者の健康管理に役立てた。

なお次頁以降に、嗜好調査表、栄養実績年計表、お茶の会一覧表を運営状況の参考資料として添付した。

嗜好調査

2015年4月 []

アンケートにご協力お願いします

該当するところに○をしていただきか、記入をお願いします

- ☆ お食事は楽しですか？
楽し 普通 そうでもない
- ☆ お食事は満足していますか？
満足している 普通 そうでもない
普通、そうでもないと思われる方、出来れば理由を聞かせてください
()
- ☆ 汁物、スープの味はどうですか？
濃い 丁度いい 薄い
- ☆ ご飯の硬さはどうですか？
硬い 丁度いい やわらかい
- ☆ ご飯の量はどうですか？
多い 丁度いい 少ない

★ 食堂の卓上調味料関係を今後置かない方向で考えています

引き上げることにより不都合な点はござりますか？

(引き上げ後も料理により、必要な時は御提供致します)

◆お食事中の音楽について、どう思われますか？

「どんな曲が聞きたいですか・曲はなくてもよい・今の曲で満足他、意見を聞かせてください」

★今後 行事食でして欲しいことはありますか？

◇調理部からお知らせがあります。毎年2回行なっている、嗜好調査の方を行ないたいと思いま

その内容につきまして、食事についてのアンケート、調味料関係について

お食事中の音楽について、今後して欲しい行事食関係

そのほか食事についてや、調理部に対してのご意見をお伺いしますのでよろしくお願いします

期間は明日9日から、13日までの間に行ない各調理部の担当が伺いますので、

よろしくお願いします

嗜好調査

2015年9月 []

アンケートにご協力お願いします

該当するところに○をしていただきか、記入をお願いします

- ☆ お食事は楽しですか？
楽し 普通 そうでもない
- ☆ お食事は満足していますか？
満足している 普通 そうでもない
普通、そうでもないと思われる方、出来れば理由を聞かせてください
()
- ☆ 汁物、スープの味はどうですか？
濃い 丁度いい 薄い
- ☆ ご飯の硬さはどうですか？
硬い 丁度いい やわらかい
- ☆ ご飯の量はどうですか？
多い 丁度いい 少ない
- ☆ 主菜の量はどうですか？
多い 丁度いい 少ない

☆ 10月18日のお茶の会で、簡単なクッキーの形抜き体験実習を行います

当日午前中の30分程度の作業になりますが参加を希望しますか？○

※参加者が多い場合は抽選になりますので、ご了承ください

する

しない

☆ お好きな麺類を教えてください

★今後 行事食でして欲しいことはありますか？

その他 ご意見 ご要望がございましたらご記入してください

ご協力ありがとうございました。

嗜好調査

2015年4月 回答45名

☆ お食事は楽しですか？	普通	そうでもない
楽し	9名	2名
満足している	8名	3名
☆ 汁物、スープの味はどうですか？	薄い	3名 (飲まない1名)
濃い	41名	0名
☆ お米の硬さはどうですか？	やわらかい	1名
硬い	41名	3名
☆ ご飯の量はどうですか？	少ない	29名
多い	8名	丁度いい

前回調査

2014年9月 回答者47名

☆ お食事は楽しですか？	普通	そうでもない
楽し	11名	4名
満足している	12名	5名
☆ 汁物、スープの味はどうですか？	薄い	3名
濃い	38名	5名
☆ ご飯の硬さはどうですか？	やわらかい	4名
硬い	39名	3名
☆ ご飯の量はどうですか？	少ない	33名
多い	6名	丁度いい

嗜好調査 年度別満足度

	2014.9	47名中	30名	2013.9	46名中	24名
2015.4 45名中	34名	2014.4 50名中	31名	2013.4 48名中	26名	

嗜好調査 結果

2015年9月 回答46名

☆ お食事は楽しですか？	普通	そうでもない
楽し	9名	1名
満足している	15名	1名
☆ 汁物、スープの味はどうですか？	薄い	6名
濃い	38名	1名
☆ ご飯の硬さはどうですか？	やわらかい	1名
硬い	43名	1名
☆ ご飯の量はどうですか？	少ない	8名
多い	35名	3名
☆ 主菜の量はどうですか？	少ない	1名
多い	35名	10名

☆ 10月18日のお茶の会で、簡単なクッキーの形抜き体験実習を行います

当日午前中の30分程度の作業になりますが参加を希望しますか？○

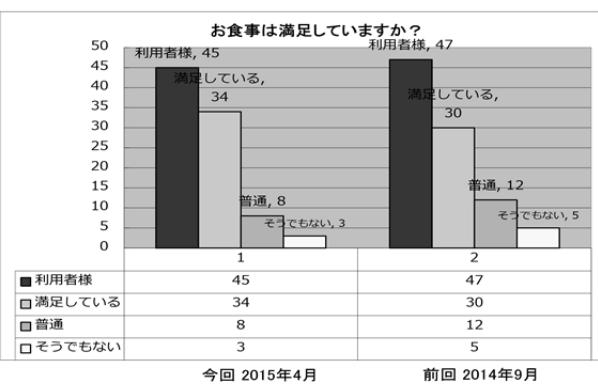
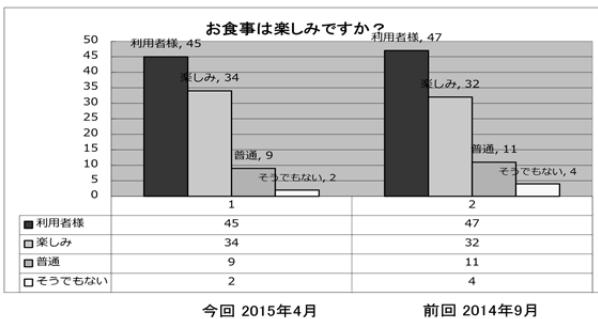
※参加者が多い場合は抽選になりますので、ご了承ください

参加希望者 22名

嗜好調査 年度別満足度

	2014.9	47名中	30名	2013.9	46名中	24名
2015.9 46名中	30名	2014.4 50名中	31名	2013.4 48名中	26名	

嗜好調査 結果



嗜好調査 結果

★今後 行事食等でご希望はございますか?

ご意見

- 1 アイス
- 2 選んで食べたい。ケーキや肉は良かった
- 3 生魚を増やして欲しい
- 4 シジミ汁が飲みたい
- 5 オイスター・ソースが食べたい。きゅうり和えなど
- 6 スコッチャッピング。かしわもち
- 7 お赤飯が食べたい。きなこもちも食べたい
- 8 子供の日にかしわもちを出して欲しい。お肉メニューも好き
- 9 子供の日にかしわもち
- 10 品数多く、ボリュームを控えめがいい。なますが食べたい、懐石料理風弁当
- 11 一つ一つの量を減らし種類を多くして欲しい。マヨネーズ多めがいい
- 12 洋食・ハンバーグ
- 13 うどんと丼のセット
- 14 寿司のセット麺類
- 15 ミックスフライ
- 16 魚、アジが特に好き
- 17 寿司とうどんのセット
- 18 サンドイッチ
- 19 B級グルメ
- 20 おにぎり、サンドイッチのバイキング
- 21 野菜バイキング
- 22 お肉料理
- 23 酢飯が好き。巻き寿司、おにぎり
- 24 ところてん、赤飯、おにぎりは選択メニュー以外でも食べたい
- 25 貝類、イカやカニ等
- 26 お弁当は食べにくい
- 27 おひな様→白酒・行事→そん様の食器
- 28 バイキング、和食

嗜好調査2015.4

◆お食事中の音楽について、どう思われますか?

「どんな曲が聞きたいですか・曲はなくてもよい・今の曲で満足他、意見を聞かせてください」

ご意見
ジャズ、洋楽
静かよりあったほうがよい
クラシック
職員同士の会話が聞こえなくてよい
福山雅治、平井堅
曲があれば楽しい
楽しい、もう少し音量を上げて欲しい。千昌夫
インストルメンタル
高倉健CD
ジャズ、曲だけ
ハワイアン
あまり好きではない
北島三郎
曲が流れているのがわからなかった
ビートルズ、インストルメンタル
ドグトルジバゴ

嗜好調査 結果

★その他 ご意見 ご要望

- 1 パンをもう少し多くして欲しい
- 2 汁物の黒胡椒で喉が痛い
- 3 麺類が短く食べにくく
- 4 サバ禁だけど塩焼きは食べたい。秋刀魚は頭がいい
- 5 温かい物は温かく食べたい
- 6 餃子が美味しい手作りがいい。お粥のトッピングを増やして欲しい
- 7 定期的に食事のアンケートを聞いて欲しい
- 8 レバーと生のトマトは嫌い
- 9 満足している
- 10 もう2、3キロ体重を落としたい。醤油よりポン酢がいい
- 11 弁当の量が多い。
- 12 顔が見えない誰かわからない
- 13 魚禁の代替がうらやましい
- 14 天ぷら、フライ衣が厚い。魚はシンプルな塩焼きがいい
- 15 レーズントーストはマーガリンがいい
- 16 たまねぎが辛い時がある
- 17 種付き梅干を出して欲しい
- 18 甘いもの、練り物、味付けの濃いものやおでん
- 19 お刺身が食べたい
- 20 肉料理を多く

栄養実績年計表

曙光園

利用者
平成27年4月～平成28年3月

		施設長	副施設長	事務部長	栄養士														
月	エネルギー (kcal)	水分 当量	たんぱく質 当量	脂質 当量	炭水化物 当量	灰分	ナトリウム 当量	カリウム 当量	カルシウム 当量	マグネシウム 当量	亜鉛 当量	鉄 当量	ビタミンD 当量	ビタミンC 当量	ビタミンB1 当量	ビタミンB2 当量	食物繊維 (総量)	脂肪酸 (総量)	食塩相当量
4月	1663	1228.7	734	68.5	47.7	232.8	14.9	3012	2628	494	246	1018	8.2	6.0	111	0.96	1.08	35.46	15.5
5月	1648	1189.3	1094	67.4	46.2	235.3	14.9	2927	2563	478	246	1012	8.3	5.8	116	1.04	1.05	35.82	15.0
6月	1670	1246.2	730	70.4	46.9	238.6	15.3	3038	2608	556	248	1024	8.6	6.0	108	1.05	1.12	34.73	15.2
7月	1653	1224.1	528	70.5	47.1	232.7	15.0	3016	2569	495	250	1030	8.2	7.6	106	1.01	1.03	34.61	15.1
8月	1654	1277.8	487	69.1	46.5	235.4	15.0	2834	2604	543	257	1025	8.8	5.4	113	0.97	0.98	35.87	16.0
9月	1640	1255.0	790	67.1	45.3	236.4	15.8	3006	2680	542	260	1011	9.0	5.9	109	1.00	1.09	34.01	16.2
10月	1658	1257.7	805	70.4	45.2	265.4	15.3	2978	2629	542	257	1041	9.0	6.7	103	0.97	1.07	33.48	16.2
11月	1668	1238.4	872	69.0	47.0	237.4	15.2	2923	2655	535	254	1038	9.0	6.4	119	1.02	1.02	35.40	16.1
12月	1664	1285.1	1257	67.8	46.2	238.2	15.6	3003	2698	535	253	1018	9.2	5.8	118	0.98	1.15	34.94	16.6
1月	1683	1300.3	501	71.8	46.5	238.6	15.5	2968	2624	567	270	1065	9.3	6.4	103	0.96	0.99	35.65	16.5
2月	1671	1255.1	1452	70.8	47.0	236.6	15.7	2962	2715	581	267	1076	9.7	7.1	114	1.06	1.18	34.94	16.3
3月	1644	1227.7	809	69.2	46.2	261.1	14.8	2908	2550	530	247	1041	8.6	6.7	112	1.01	1.05	34.67	15.8
合計	19906	14985.4	10059	832.0	557.8	2888.5	183.0	35575	31523	6398	3055	12399	105.9	75.8	1332	12.03	12.81	419.58	190.5
平均	1659	1248.8	838	69.3	46.5	240.7	15.3	2965	2627	533	255	1033	8.8	6.3	111	1.00	1.07	34.97	15.9
目標	1800	0.0	570	60.1	23.0	0.0	0.0	0	1717	600	276	700	10.6	2.5	100	0.95	1.10	0.00	0.0
差異	-141	1248.8	268	9.2	23.5	240.7	15.3	2965	910	-67	-21	333	-1.8	3.8	11	0.05	-0.03	34.97	15.9

2015 年度 お茶の会一覧表

実施日	内 容	参 加 人 数
4/19 (日)	テーマ「春」	38 名
	よもぎだんご・緑茶	
5/17 (日)	テーマ「初夏にさわやかレモンケーキ」	46 名 <small>(内お客様 11 名)</small>
	レモンケーキ・紅茶	
6/21 (日)	テーマ「あじさい」	36 名
	マッシュマロババロア はちみつゼリーのせ・ 紅茶 or オレンジジュース	
7/19 (日)	テーマ「暑い夏を乗り切ろう 元気が出るドーナツ」	38 名
	ドーナツ・紅茶	
8/16 (日)	テーマ「フルーツたっぷりひんやりデザートで暑い夏を乗り切ろう！」	40 名
	フルーツパフェ・アイスレモンティー	
9/20 (日)	テーマ「中秋の名月で月見まんじゅう」	38 名
	まんじゅう・緑茶	
10/18 (日)	テーマ「みんなでお菓子作りを楽しもう」	25 名
	クッキー・紅茶	
11/15 (日)	テーマ「午後のティータイム」	34 名
	チョコと小豆のポンデケージョ・アップルティー	
12/20 (日)	テーマ「ホワイトクリスマス」	45 名
	チョコとくるみのパウンドケーキ・コーヒー	
1/17 (日)	テーマ「和菓子でほっこり」	40 名
	甘栗入り水ようかん・緑茶	
2/21 (日)	テーマ「バレンタイン後のちょっとブラウニー」	40 名
	ブラウニー・コーヒー	
3/31 (日)	テーマ「春が来た！旬のデザートイチゴの味覚をどうぞ」	38 名
	いちごモンブラン・コーヒー	

6. 事務部

部長 相模泰宏

2015年度は、今後の法人の多様化に向けた施設と法人本部の業務分担及び指示系統の明確化を図り、運営については、各部署の事業計画に基づいた予算執行管理を実施し、職員のコスト意識・改善意識の徹底により経費削減に努めた。

施設業務と法人本部業務の分担

事務部で行っている業務の中で、法人本部の事務業務を明確な分担を図り、今後の法人の新規事業による多様化に向けた組織分割の準備を行った。

事務業務の共有化

庶務・人事・会計等の様々な事務業務のマニュアルを作成することにより、業務の標準化・安定化・共有化を目的とし、時間短縮・知識及び経験の継承・問題回避等の改善を図ったが、引き続き業務の進め方を定期的に見直し改善を行う。

コスト意識の向上と支出削減

施設全体でのコスト意識や環境意識の向上により、使用済みコピー用紙排出量の削減、水道代・電気代・ガス代等電気使用量の削減、計画的な消耗品等の購入及び効率的な消費を実施し経費削減を図った。

7. 防火・防災対策

防火・防災管理担当者 大島克哉

(曙光園 防火管理者)

2014年度同様、防火・防災対策として月に1度のペースで自衛消防訓練を実施した。火災発生時・震災発生時を想定した、昼間体制訓練・夜間体制訓練を実施するとともに、5月には消防署立会いの訓練・救命救急訓練、2月には消防設備学習訓練を実施した。その結果、対処速度・職員意識等の向上を見ることができた。

3月1日より、曙光園防火管理者が変更となっている。

近隣地域との連携として、近隣の障害者・高齢者等の受け入れの可能性に備えて、防災食料等の備蓄を行っている。また、大規模震災時に、備蓄用品の適切な使用及び、搬出作業が実行できるように、収納場所の確認を行い、使用方法についても、自衛消防訓練で周知した。

自衛消防訓練実施

年月日	訓練形式	訓練想定	参加者		合計
			職員	利用者	
2015年4月26日	通報・消火・避難訓練	夜間想定	8	46	54
2015年5月22日	総合消防訓練	夜間想定	17	49	66
2015年6月28日	震災対応・避難訓練	夕刻想定	8	48	56
2015年7月26日	通報・消火・避難訓練	夜間想定	5	46	51
2015年8月23日	通報・消火・避難訓練	昼間想定	7	48	55
2015年9月27日	震災対応・避難訓練	夜間想定	7	48	55
2015年10月25日	震災訓練・避難訓練	昼間想定	10	49	59
2015年11月29日	通報・消火・避難訓練	昼間想定	10	49	59
2015年12月27日	通報・消火・避難訓練	夜間想定	7	47	54
2016年1月31日	通報・消火・避難訓練	夜間想定	7	49	53
2015年2月28日	消防設備学習訓練	昼間想定	12	0	12
2015年3月27日	通報・消火・避難訓練	夜間想定	7	49	53
累計			105	528	627

消防・防災等届出

届出年月日	届出書類	備 考
2015年6月8日	消防用設備等点検結果報告書	
2015年8月30日	消防活動上支障のある行為等の届出書	曙光園納涼祭
2015年10月9日	消防活動上支障のある行為等の届出書	花火鑑賞会
2015年11月8日	消防用設備等点検（点検のみ）	

消防研修

研修年月日	研修名	参加人数
2015年10月7,8日	防火・防災管理新規講習（立川会場）	1名

防災用非常食品の年度内購入履歴

購入年月	品目	数量	備考
2015年9月	いわし煮付	72缶	【職員用】
2015年10月	やきとりタレ缶	72缶	【職員用】
2015年11月	ようかん	10本	【職員用】
2015年12月	さんまの味付	72缶	【職員用】
2016年2月	ビスケットチョコ	96個	【利用者、職員近隣】
	ビスケットオレンジ	96個	【利用者、職員近隣】
	ビスケットプレーン	192個	【利用者、職員近隣】
2016年3月	レトルトカレー	80食	【利用者、職員近隣】

曙光園 特定相談支援事業所

相談支援専門員 笹本弘美

1. 曙光園 特定相談支援事業所

特定相談支援については、2015年度より2名体制でサービス等利用計画及びモニタリング報告書の作成にあたり、地域で暮らす障害福祉サービスを必要とする方々や曙光園内の利用者の相談、自立への支援にあたってきた。

相談支援部を窓口とし、今後、ますます地域に貢献する施設のひとつとして、大きな機能・役割を果たしていくことになる。

相談支援事業の活動

2014年4月の開設から2年が経過し、2015度より相談支援専門員も2名体制となり、外部の障害福祉サービス利用者との契約数も延べ22名となった。

小平市相談支援事業所連絡会への定期的な参加や、相談支援専門員を対象とした研修や講習等へ精力的に参加することにより、相談支援の在り方や他事業所との情報交換を充実させた。

障害に対する相談支援体制

2015年度は、相談支援専門員としての具体的な取り組みや支援の在り方を、地域や東京都で開催する連絡会等を通じて情報を得ることを行なってきた。

高次脳機能障害に対する支援の充実を図るために連絡会等への参加を通じ、困難な支援の実際や様々な事例から、障害への理解をさらに深める必要を感じた。連絡会・講習・研修等で得た情報を、曙光園特定相談支援事業所としてサービス等利用計画案作成の視点やサービスの選択等に反映し、事業所としての相談支援スキルの向上を図ることができた。今後も地域で行なわれる連絡会や東京都が開催する研修等、様々な視点から相談支援体制の強化を図り、地域での情報を収集し役割を果たしていく。

相談支援専門員の研修等参加実績

2015年4月27日	小平市相談支援事業所連絡会（相談支援ワーキング）
2015年6月9日	平成27年度 区市町村高次脳機能障害者支援 促進事業支援員連絡会 <東京都心身障害者福祉センター>
2015年6月22日	小平市相談支援事業所連絡会（相談支援ワーキング）
2015年7月6日	第6回 高次脳機能障害者支援ネットワーク 協議会総会 <北多摩北部地域高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会>
2015年7月26日	小平西地区・地域ネットワーク地域懇談会
2015年8月4日.5日	第38回 てんかん基礎講座 <公益社団法人日本てんかん協会>
2015年8月24日	小平市相談支援事業所連絡会（相談支援ワーキング）
2015年9月7日	福祉施設のための苦情対応セミナー <損害保険ジャパン日本興亜株式会社>
2015年10月16日	高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会 <北多摩北部地域高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会>
2015年10月22日	平成27年度 第2回区市町村高次脳機能障害者 支援促進事業支援員連絡会 <東京都心身障害者福祉センター>
2015年10月26日	小平市相談支援事業所連絡会（相談支援ワーキング）
2015年11月14日	高次脳機能障害を持つ人に寄りそう <公益財団法人東京都保健医療公社>
2015年11月24日	平成27年度 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局事業公開 <国立障害者リハビリテーションセンター>
2015年11月27日	7第6回 救護施設 黎明寮・あかつき 地域連絡会 <社会福祉法人 黎明会>

2015年12月11日	求む！こんな支援者 -障害者(児)相談支援の充実のために- <東京都心身障害者福祉センター>
2015年12月15日	小平西地区・地域ネットワーク地域懇談会
2015年12月21日	小平市相談支援事業所連絡会（相談支援ワーキング）
2016年1月16日	社会的リハビリテーション -高次脳機能障害者の自立に向けて- <北多摩北部地域高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会>
2016年2月22日	小平市相談支援事業所連絡会（相談支援ワーキング）
2016年2月29日	障害児者の嚥下機能低下への対応 -加齢による影響を中心に- <東京都府中療育センター>